

Q25

子どもの支援に加えて 保護者への支援も必要な場合は？

まずは
ここから



- 療育コーディネーターにケア会議の設定を依頼します。
- 保護者に対し、関係機関からの支援を依頼します。

養護学校中学部2年生のころから、言葉遣いが荒くなり、友だちを叩いたり蹴ったりするようになったマコトさん。家庭でも母親と激しく言い争うことが多くなりました。母親は心労が絶えず、精神的に不安定になって通院しているようです。

ケア会議を設定し、保護者への支援も行うことができた事例を紹介します。

ケア会議の設定

担任からの相談を受けた自律教育コーディネーターは、家庭事情やマコトさんの生育歴等に詳しい、地域の福祉課や保健師の方々と相談するため、圏域の療育コーディネーターにケア会議の設定を依頼しました。

ケア会議とは：当該の子どもにかかわり、支援を行うことができる関係者が一堂に会し、話し合いを行います。それぞれの情報を交換し合いながら、今後の具体的な対応を検討して分担し、継続的に支援を行います。

地域の福祉課担当者

- 家庭の現状や福祉に関する情報提供
- 支援のアドバイス

圏域の療育コーディネーター

- 会議の進行と調整
- 支援の実際の確認

地域の保健師

- 家庭の現状や生育歴等の情報提供
- 支援のアドバイス

養護学校自律教育コーディネーター

- 支援体制の方向や連携に関する情報提供

担任

- 学校生活の様子や指導の経過の説明
- 現在の課題の提示

学年主任

- 学部、学年内の現状と課題の把握
- 子どもの実態の補足

保健師による保護者支援の開始

ケア会議の結果、学校でのマコトさんへのかかわりが明確になりました。また、保護者には地域の保健師が出向き、支援を行うことになりました。



【キーポイント】 家庭への支援は、学校だけでなく、多くの関係機関との連携によって可能となります。ケア会議の設定を、療育コーディネーターに依頼することも自律教育コーディネーターの大切な仕事です。

● マコトさんへの支援

(1) 医療的な支援について

保健師が町の「心の相談室」を担当する専門医を紹介し、本人が受診できるように保護者へ話をしてくださり、本人、保護者、担任の三者で医療相談を受けることができました。

(2) 学級でのかかわり方について

ケア会議での決定や専門医からの助言をもとに、学年会で学級の中でのかかわり方や他の生徒への配慮等について話し合いました。

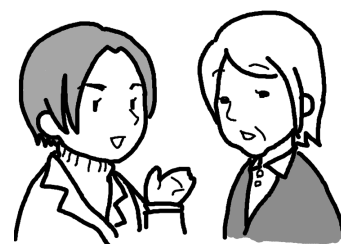
- ① 担当以外の教員が支援の方向を共通理解した上で役割分担を行い、マコトさんの心に寄り添った接し方をしていく。
- ② 刺激となる子どもとの接触は避け、担任が常に横に寄り添い、好ましい接し方を示していく。
- ③ マコトさんの得意なことを活動の中に採り入れ、意欲的に取り組める場面を増やしていく。

等

● 家庭への支援

(1) 家庭の現状の把握

保健師が家庭に電話をしたり直接会って話をしたりして、現状を把握するとともに、保護者の相談を受けました。学校では保健師と、マコトさんの生育歴とそれに伴う母親の状態等も含めて情報交換し、学校側の支援の参考にしました。



(2) 母親のストレス解消に向けて

保健師は、家庭を数回訪問する中で、母親のストレスを少しでも解消するために、次のようなことを確認しました。

- ① 負担になっていたマコトさんの家から駅までの送迎を母親に代わり父親が行う。
- ② 帰宅後や休日等は、父親がマコトさんと一緒に遊ぶ、テレビを見る、何かを作る等、共に過ごす時間を増やす。

(3) その他の支援

学校からは、必要に応じて利用できるように「ショートステイ」先を紹介しました。家族がマコトさんと十分にかかわれない時は、利用していただくことができました。

ショートステイとは：

家族が用事等で家を空けるときに、障害のある子どもを一時的に預かるサービス。



● 少しずつ落ち着いてきたマコトさん

夏休み明け、マコトさんは友だちに対して攻撃的な言葉で向かっていくことが少なくなり、比較的落ち着いた学校生活を送ることができるようになりました。

夏休みには、父親と一緒に朝早くから畑に出かけ、野菜の出荷の手伝いをしたそうです。母親との関係にはまだ課題が残りますが、父親の理解や協力を得て、少しずつ気持ちが安定してきています。